

CODE 海外災害援助市民センター
2025年度 事業計画

【1. 海外災害(地)への救援活動事業】

* 終了予定時期は、一応の目標であるが、その時点で継続の必要性があれば、理事会の協議を経て決定する。

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定 時期
●継続プロジェクト	1	中国・四川省地震救援支援	2008年	2026年度末
	2	ウクライナ・ロシア避難民支援	2022年	2026年度末
	3	トルコ・シリア地震救援支援	2022年	2026年度末
	4	能登半島地震支援	2024年	2026年度末
●新規プロジェクト	5	チベット・シガツェ地震支援	2025年	2025年度末
	6	ミャンマー・タイ地震救援プロジェクト	2025年	2026年度末
●休眠プロジェクト	7	アフガニスタン救援プロジェクト	2003年	

●継続プロジェクト

事業名	1-(1) 中国・四川省地震支援/新型コロナウイルス感染症支援
実施日時	2008年5月13日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の 範囲及び予定 人数	四川省北川県光明村村民約700名および周辺住民 湖北省武漢市民
実施内容	<p>【2025年度の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光明村の状況をフォローアップ 本年度は、中国・四川省への渡航を再開し、光明村周辺の観光開発(集いの広場や竹林、小川などの整備)の状況を把握し、村民委員会による農家楽の動きをフォローしていく。 ・現地 NGO との連携強化 四川大地震以降連携してきた NGO 備災センター(新安世紀教育安全科技研究院)や中国災害防御協会と引き続き両国の災害時の連携だけでなく、研修などを通じて復興・防災・減災普及の一助を担う。具体的には、中国での防災・減災のシンポジウムへの登壇や中国の災害関係者の研修を能登半島地震の被災地で行いたいと提案を

	<p>いただいている。</p> <p>・日中 NGO ボランティア研修交流事業の再開 本事業では、これまでに 29 名(うち 4 名は国内)の学生など若者が四川の被災地で学ぶ機会を提供してきた。このうち、中山迅一さん(NPO 法人まなびと代表)、堀之内(成安)有希さん(元 CODE 理事)、柳瀬彩花さん(2023 年 3 月追手門学院大学卒、気仙沼地域おこし協力隊を経て、4 月から神戸市社会福祉協議会、2025 年度より CODE 理事)、原田梨央さん(長崎大学大学院グローバルヘルス研究科卒、現在、JICA 海外協力隊でベナンに赴任)などは今も CODE の活動に協力いただいている。</p> <p>2025 年度は、CODE 未来基金にかかわる学生インターンや学生ボランティアなどが中国など海外の被災地で学ぶ機会を提供する。</p> <p>* 2025 年度の主な動き: ・4/27-30 2025 年防災・減災大会(中国災害防御協会主催/中国・杭州)で登壇 (渥美大阪大学教授・吉椿) ・2026 年 2 月～3 月頃 日中 NGO ボランティア研修交流事業を予定</p>
事業の目標と終了予定時期	2018 年度で四川大地震後に、CODE が伝統木造建築で建設した老年活動センターを活かした「農家楽」の運営を見守る。そして現地の NGO と支え合い、学び合いの場を積極的に作っていく。終了予定時期は 2026 年度末にしているが、必要であれば理事会の議論を経て再考する。

事業名	1-(2) ウクライナ・ロシア避難民支援
実施日時	2022 年 2 月 24 日～継続中
実施場所	兵庫県神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	兵庫県内に避難してきたウクライナ・ロシアの人たち約 100 名
実施内容	<p>【2025 年度の計画】</p> <p>ロシア軍による侵攻から 3 年以上を経て、現在でも日本に 2777 人(2025/4/30)のウクライナが避難してきている。(兵庫県には 103 人)他方で CODE が MOTTAINAI やさい便などで支援してきた人の中にも戦火のウクライナに帰国を余儀なくされた方も出てきている。</p> <p>日本財団や政府の支援も 3 年の期限を迎え、自立を迫られる状況にある。また、新たな改正出入国管理・難民認定法により「補完的保護対象者」となり、5 年間の定住 VISA を得られること等、制度をめぐる動きも変化している。戦争が長期化するなかで新たに日本へと家族を呼び寄せられる方、本格的に仕事を探される方、帰国の決断をされる方など、それぞれの生活の在り方に合わせた支援が必要である。</p>

	<p>よって、2025 年度も「MOTTAINAI やさい便」等のつながりを通じてウクライナ避難者ひとりひとりの暮らしに寄り添いつつ、生活のニーズに対応していく。</p> <p>以上のような状況から CODE としての 2025 年度も支援を継続していく。</p> <p>【2025 年度の計画】</p> <p>① 「MOTTAINAI やさい便」</p> <p>スタッフ 2 名と草地としこさんと月 2 回、車輛 2 台で 29 世帯に配達している。</p> <p>学生ボランティアさんにも活動に参加してもらい、ウクライナ避難者の方々と直接、出会う機会を提供する。野菜提供のなかでお話を聞きつつ、引っ越しの手伝いや仕事に必要な物資のニーズ等出た場合は対応する。</p> <p>② 「子守りボランティア」</p> <p>毎週一回、O さんのご家庭でボランティアによって実施されていたが、2025 年 5 月末ウクライナに帰国されたため、活動を休止中。参加していただいた学生さんに引き続きウクライナや CODE のことに関心を持ってもらえるよう、他の CODE のボランティアへの参加を呼びかける。また、O さんとのオンラインでの交流会も検討している。</p> <p>③ 「地域住民との交流会」</p> <p>地域住民とウクライナ避難者の交流の機会を設けるため、半年に一度ほどウクライナ避難者の住む集合住宅にて交流会を開催する。</p> <p>◎2025 年度の主な動き</p> <p>4/19 S さん、引っ越しボランティア(島村さん、安福さん、玉地さん、岩尾さん、南さん、山村、吉椿)</p> <p>4/21 ウクライナ避難民 S さんの買い物サポート(吉椿)</p> <p>5/7.9 MOTTAINAI やさい便(草地さん、村井理事、吉椿)</p> <p>5/22 MOTTAINAI やさい便(草地さん、村井理事、吉椿)</p> <p>以降、月 1~2 回のやさい便を実施している。</p> <p>5/25 O さん引っ越しボランティア(樋上さん、安福さん、松尾さん、ノランさん、山村)</p> <p>5/29 O さんに色紙を渡す(吉椿、安福さん)</p> <p>6/28 ウクライナ憲法記念日集会に参加(吉椿)</p>
	<p>ウクライナの戦争が長期化していることから、一応の終了目標は 2026 年度末とする。</p>

事業名	1-(3) トルコ・シリア地震支援
実施日時	2023 年 2 月 6 日～継続中
実施場所	トルコ共和国ガジアンテプ県、カフラマンマラシュ県、アディヤマン県、ハタイ県など
受益対象者の 範囲及び予定 人数	仮設住宅に居住する被災者約 1000 人 ハタイ県デフネの被災者約 50 人 ハタイ県アクネヒル村の子どもたち約 150 人
実施内容	<p>【2025 年度の計画】</p> <p>1 「子どもライフステーション」の運営サポート NGO(協同組合)「Hatay Ronya Sanat」を通じて、上記ステーションの教師たちの 5 名の給与(6 か月)をサポートした事で、4/27 に正式にステーションが開所した。このステーションに集う子どもたちを対象とした防災教育普及の声も上がっている事から、日本の若者たちとのオンラインでの交流などを実施するなど、引き続きステーションの運営をサポートする。</p> <p>2 協同組合のコミュニティスペース建設 ハタイの NGO「Dayanışma Gönülleri (連帯ボランティア)」は、自ら設立した協同組合の共有スペースの建設を検討してきたが、フランスの財団が撤退した事で、CODE の資金で小規模なスペースから再スタートすることとなった。よって、CODE は引き続き協同組合のスペースの建設・運営を見守っていく。</p> <p>3 「子どもと家族のケアセンター」の見守りと交流 CODE は、NGO ACEV と建設した「子どもと家族のケアセンター」の運営を見守りつつ、機会があればセンターを活用した交流も検討する。</p> <p>4 トルコ・日本ユースボランティア交流 これまでオンラインやコープこうべハート基金のご支援によってトルコと日本のユースでボランティア交流を行ってきた。現地とのタイミングが合えば、オンラインなどを活用してトルコのボランティアたちと日本の若者たちとの交流を通して、学び合う機会を作る。</p>
事業の目標と 終了予定時期	引き続きハタイ県の新規プロジェクトを進めていく事から一応の終了目標は 2026 年度末とする。

事業名	1-(4) 能登半島地震・豪雨支援
実施日時	2024 年 1 月 1 日～継続中
実施場所	石川県能登地方(七尾市中島町小牧、珠洲市、輪島市、穴水町など)
受益対象者の 範囲及び予定	七尾市中島町小牧地区の被災住民約 200 人 珠洲市・輪島市の自主避難所や仮設住宅に居住する被災者約 1000 人

人数	
実施内容	<p>【2025年度の計画】</p> <p>◎「やさしや足湯隊」</p> <p>今年度も被災地 NGO 協働センターが拠点にしている七尾市の中島町小牧集会所を中心に、七尾だけでなく珠洲、輪島、穴水の仮設住宅や公民館、地域コミュニティの中心になる場所(ガソリンスタンド、スーパー、お寺など)で足湯ボランティアを月に一度のペースで実施する。仮設住宅から元の集落や災害復興公営住宅や、在宅に戻られた方に向けての足湯ボランティアを実施していく。</p> <p>また、足湯ボランティアだけでなく、人が集まりやすいようなスペース(カフェやサロンなど)を設けて、足湯等がなくても普段から住民さん達が集まりやすい雰囲気作りを行っていく。ボランティアさんと住民さんのつながりだけでなく、住民さん同士のつながりが円滑になる場所を提供し、住民さん同士でのカフェや足湯ボランティア等の企画ができるように促していきたい。</p> <p>被災地に初めて行く方やボランティアを初めて行う方が、居心地の良い雰囲気作りを行い、ボランティア経験がある方も初めての方から、お互い学び合いを行っていく。また、発災から一年半が経ち関心が薄くなっているからこそ、できるだけ能登半島の文化や歴史、景色などに触れ合い楽しみながらも学びのある派遣を目指し、能登半島に興味関心を持ってもらえるよう工夫する。</p> <p>足湯ボランティアを引率するリーダー、もしくは足湯ボランティアに複数回参加しているリピーターに向けて、「足湯の気になるつぶやき ガイドブック」を足湯ボランティアに行く前に目を通してもらう。具体的にどのような「つぶやき」が出たら専門家につなぐ必要があるのか事前に知っておくこと事前の対応を行う。</p> <p>◎「つぶやき」の分析</p> <p>2024年2月16日から8月19日の第19次足湯隊までに集まった「つぶやき」は、島村さんと被災地 NGO 協働センターの頼政さん、南さんが分析を行い、日本災害復興学会や地域安全学会で発表した。その後のつぶやきの分析も引き続き進めていく。また、「やさしや足湯隊」以外の団体も、仮設住宅や集会所等で足湯ボランティア、お茶会などを行い、一人ひとりの「つぶやき」を記録している。これらの他団体が集めた「つぶやき」収集に協力してもらい、今後も継続的に分析していく。</p> <p>◎「つぶやき」を考える会</p> <p>これまで「やさしや足湯隊」にかかわった多くのボランティアにも「つぶやき」を考えてもらう機会を作り、今後参加希望する方にも被災地の現状を知ってもらう事で、今後、やさしや足湯隊として「つぶやき」からできることを考える。</p> <p>◎全国足湯ボランティア交流会の開催</p>

	<p>阪神・淡路大震災から始まった足湯ボランティアは、その後の、新潟中越地震や東日本大震災などでも広がりを見せ、現在の能登半島地震の支援でも多くの団体が足湯ボランティアを行っている。広がりを見せる一方で、足湯ボランティアの意義や一人ひとりに寄り添うことなどの根幹が伝わりきれていないに加え、足湯ボランティア自体の方法が、様々な形で派生してバラバラになっている。</p> <p>よって、もう一度足湯ボランティアの根幹を共有し、足湯ボランティアを行う学生同士が足湯を行う団体や学生が抱える課題を共有し、今後の足湯や支援について考える場として「全国足湯ボランティア交流会」を開催する。</p> <p>「全国足湯ボランティア交流会」開催の予定 日 程:2025 年 10 月 18 日(土)~19 日(日) 場 所:国立能登青少年交流の家(石川県羽咋市) 内 容:基調講演「能登半島の被災地の現状(仮)」 田中純一(北陸学院大学教授) 足湯ボランティアの講習会 吉椿雅道(CODE 事務局長) 参加予定団体:「やさしや足湯隊」、「一般社団法人おもやい」、「ワカモノデカラプロジェクト」、「被災地支援チーム OKBASE」、「北陸学院大学」、「福島大学」、「レスキューストックヤード」、「栃木ボランティアネットワーク」、「日本財団ボ活」「コープ石川」「石川県立看護大学」「九州看護福祉大学」「小松大学オレンジピース」など</p> <p>◎2025 年度の主な動き 4/18 CODE・協働センター能登支援ミーティング(島村さん、村井理事) 4/21-24 足湯隊第 29 便(安福さん、南さん、村井理事、山村) 5/3-6 足湯隊第 30 便(安福さん、山村、吉椿) 5/27-30 足湯隊第 31 便(村井理事、島村さん、山村) 6/3 足湯ボランティア交流会ミーティング(頼政さん、山村、吉椿) 10/18-19 全国足湯ボランティア交流会を開催</p>
事業の目標と終了予定時期	能登の復興には今後も時間を要するが、一応の終了予定時期を 2026 年度末とし、その都度更新していく。

事業名	1-(5)チベット・シガツェ地震支援
実施日時	2024 年 1 月 7 日
実施場所	チベット自治区シガツェ市ティンリ県
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	チベット自治区シガツェで M6.8 の地震が発生し、死者 126 人、負傷者 188 人、倒壊家屋

	<p>3600 棟の被害を出した。</p> <p>池谷薫監督(チベット映画「ルンタ」を撮影)が講演や上映会などで積極的集めてくれた資金を活用し、現地の支援に充てる。現在、中国災害防御協会の張国遠さんを通じて、現地で活動する NGO を紹介していただいております、チベットの子どもたちに防災の教材を提供する案が出ている。他の可能性も含め支援先と内容を検討する。</p>
事業の目標と終了予定時期	<p>資金もそれほど多くないことから、現地の NGO の活動をバックアップをする。</p> <p>2025 年度中に送金して終了を予定している。</p>

事業名	1-(6) ミャンマー・タイ地震支援
実施日時	2025 年～継続中
実施場所	ミャンマー・マンダレー市/地方域、サガイン管区など
受益対象者の範囲及び予定人数	マンダレー郊外、またはサガインの農村約 2000 人
実施内容	<p>2025 年 3 月 28 日にミャンマー中部を震源とした大地震が発生し、震源のサガイン管区西部やマンダレー市とその周辺(マンダレー地方域)、首都ネピドーなどに大きな被害を出した。また、隣国タイの首都バンコクでも建築中の高層マンションが倒壊し、カンボジア、ラオスなどの出稼ぎ労働者も犠牲になった。</p> <p>地震発生時、タイ北部にいた CODE スタッフは、ミャンマーの NGO や関係者を紹介していただき、情報収集および情報発信を行った。</p> <p>4/9 からは、スタッフ 2 名をミャンマーの被災地に派遣し、現地の NGO と共にマンダレー郊外やサガインの被災地を回り、50 世帯分の救援物資(テントシート、蚊帳、毛布、ソーラーパネルなど)を配布した。また、今後の中長期的な支援についての情報収集や協議も行った。</p> <p>タイ・バンコクの建設中のビル倒壊現場も訪問し、被害に遭ったラオスやカンボジア、ミャンマーの出稼ぎ労働者の家族の待機するシェルターをサポートするバンコク市チャトチャック地区の職員にヒアリングした。</p> <p>【ミャンマー・タイ地震(マンダレー地震)の被害の概要】</p> <p>発生日時:2025 年 3 月 28 日 12:50(日本時間 15:20)</p> <p>規模:M7.7 震源:サガイン市北 16km 深さ:10km</p> <p>被災地:マンダレー、サガイン、マグウェ、バゴ、シャン、ネピドー、バンコク(タイ)</p> <p>被害:(ミャンマー)死者 3,757 人、負傷者 5,107 人以上、行方不明者 116 人 被害家屋 5 万 5,587 棟</p> <p>(タイ) 死者 58 人、負傷者 38 人、行方不明者 116 人 被害家屋 1389 棟 (4/22 UNOCHA 発表)</p>

	<p>【第 1 次派遣の概要】</p> <p>日 程: 2025 年 4 月 9 日(水)～18 日(金)</p> <p>目 的: 緊急救援物資の配布、中長期的な復興支援に向けた</p> <p>派遣者: 吉椿雅道、山村太一</p> <p>宿泊拠点: メイヨー(ピンウールウィン) * マンダレー市内から約 1.5 時間</p> <p>訪問場所: (ミャンマー)マンダレー市、サガイン管区、メイヨー (タイ)バンコク市チャトチャック地区</p> <p>【2025 年度の計画】</p> <p>現在、ミャンマーの被災地では雨期に入り、被災者は非常に厳しい環境下で暮らしている。特に雨期をしのぐための仮設住宅の必要性が高いが、ほとんど建設されていない。また、1 か月半を経ても何の支援も入っていない集落もあるとの報告も受けている。</p> <p>CODE は、5/15 に現地と共に活動した NGO とのオンラインミーティングを行い、住宅再建や耐震について協議を行った。</p> <p>資金の状況にもよるが、今後、現地 NGO と連携して、被災地の近郊などで耐震住宅再建に関するワークショップを検討する。ただ、国軍による規制や内戦が続いている状況でもあるので現地 NGO を前面に出し、CODE は後ろから支えるような形でプロジェクトを進めていかざるを得ない。</p> <p>今後、スタッフを再度派遣し、住宅事情や建築資材、ワークショップの場所、時期などの現地調査を行い、現地 NGO と協議を行っていく。</p> <p>* 2025 年度の主な動き</p> <p>4/9-18 ミャンマー・タイ地震第 1 次派遣(山村、吉椿)</p> <p>4/28 関西テレビ取材(山村、吉椿)</p> <p>4/26 ミャンマー・タイ地震現地派遣報告会(村井理事、島村さん、安福さん、 山村、吉椿)</p> <p>5/12 みんながけっぷちラジオ(栃木)のミャンマー取材(吉椿)</p> <p>5/13 みんながけっぷちラジオ(栃木)でミャンマーの報告(吉椿)</p> <p>5/15 ミャンマーの NGO とのオンラインミーティング(村井理事、島村さん、安福さん、 山村、吉椿)</p> <p>5/23 大阪大学大学院人間科学部の学生にミャンマー地震の講義(吉椿)</p> <p>5/29 NHK 取材(吉椿)</p> <p>6/4 NHK 取材(吉椿)</p> <p>6/19 ハート基金でミャンマー地震報告(山村、吉椿)</p> <p>関西国際交流団体協議会ミャンマー報告会に参加(吉椿)</p>
事業の目標と終了予定時期	現地の復興の状況を見ながらではあるが、一応の目標を 2 年(2026 年度末)とする。

●休眠プロジェクト

事業名	1-(7) アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の 範囲及び予定 人数	ミールバチャコット地域の2500世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は550世帯(2024年3月現在)。
実施内容	アフガニスタンのカウンターパートFさんがアフガニスタンを離れ、家族も今後、Fさんと合流するとの連絡をいただいた。よって、実質的にプロジェクトを進めることが困難になった。また、2022年の政変によって、難民として神戸に逃れてきたSさんも神戸を離れることとなった。よって、本事業を一旦、休止とする。 ただし、アフガニスタンの状況の変化によっては、本事業を再開することもある。
事業の目標と 終了予定時期	休止

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1) 事務局体制の充実化
実施日時	2013年11月～継続中
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	数名
実施内容	2025年度は、CODE 事務局は村井理事、細川さん(会計)山村太一(2023年5月からCODE スタッフ)、吉椿に加え、学生スタッフの島村優希さん(大阪大学大学院修士1年)に加え、昨年から学生インターンとして尽力いただいた安福瑞希さん(神戸学院大学4年生)が、9月から大学を1年休学し、CODEの学生スタッフとして活動する事となった。彼女にはNGOの事務局業務だけではなく、海外でのプロジェクト推進についても学んでもらう。 また、今度年度も6月から立命館大学3年生の山口ほなみさんが学生インターンとして加わる。

事業名	2-(2) NGO ことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	当NGO スタッフはじめ、学生や一般など

実施内容	<p>現在、能登半島地震支援やウクライナ避難民支援などの災害救援に関心を持つ若者が増えてきていることから、今年度も「NGO ことはじめ」を若干数実施し、若者たちが NGO について学ぶ機会を作る。学生インターンの安福さんに担当していただく。</p> <p>今年度は、若者たちから NGO に関する疑問に村井理事が応えていく形で実施し、それを機にアユス NGO 大賞の記念講演の企画を若者たちに考えてもらう。</p> <p>* 5-(1)CODE 寺子屋を参照</p>
------	---

事業名	2-(3)「〇〇と国際協力」
実施日時	毎月第 3 木曜日
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	<p>2014 年 3 月より「食と国際協力」を月 1 回、第 3 木曜日に開催してきた。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらうという主旨で、2019 年度までの 7 年間で計 59 回を開催し、のべ 801 名にご参加いただいた。</p> <p>2020 年度からは「〇〇と国際協力」という形でリニューアルする事となり、以下の通り年 1 回のペースで実施した。2022 年度は、「若者と国際協力～青年海外協力隊と農業～」と題して若者を中心に開催した。</p> <p>【2025 年度は開催する予定はないが、状況によっては開催を検討する。】</p>

事業名	2-(4)CODE 未来基金
実施日時	2015 年 4 月 1 日より
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働くことをめざす若者、若干名。
実施内容	<p>【2025 年度の計画】</p> <p>今年度も能登半島地震の足湯ボランティアやウクライナ避難民支援、若者会議などを通じて、若者たちのボランティアなどの動きを CODE 未来基金として積極的に応援していく。2025 年は中国四川省などの海外での活動も再開していく。</p> <p>能登半島地震の足湯ボランティアや高校・大学の講義、関西 NGO 協議会の企画などを通じて分野や地域を超えた若者同士の交流を深めていく。</p>

	<p>◎若者会議</p> <p>2024 年度は若者を主体として日々抱える不安や不満を共有、解決するとともに、社会のあるべき姿について考える議論を重ねてきた。今年度も一人ひとりの声を集め、それぞれが解決していく手助けになる場、そして社会のあるべき姿を考え続ける場を通しての“居場所”づくりを月に 1 回程度で継続していく。また、必要に応じて若者会議で出た不安・不満や意見を発信していく。</p> <p>◎ユースフィールドワーク</p> <p>若者たちに分野や地域を超えたつながりや視点を持ってもらうために関西地域を中心に NGO や国際機関などを訪問するフィールドワークを行う。</p> <p>(EX:長田の在日外国人問題にかかわる NGO や JICA 関西や UNOCHA などの国際機関)</p> <p>* 2025 年度の若者たちの主な動き</p> <p>4/5 ワカモノヂカラとミャンマー・タイ地震の街頭募金(玉地さん、島村さん、山村)</p> <p>4/12 インターン卒業発表会(玉地さん、岩尾さん)</p> <p>5/3-6 足湯隊第 30 便(安福さん、山村、吉椿)</p> <p>5/14 第 5 回若者会議(岩尾さん、玉地さん、安福さん、島村さん、山村)</p> <p>5/25 ウクライナ引っ越しボランティア(山村、樋上さん、安福さん、松尾さん、ノランさん)</p> <p>5/27-30 足湯隊第 31 便(村井理事、島村さん、山村)</p> <p>6/16 第 6 回若者会議(玉地さん、岩尾さん、安福さん)</p> <p>8/27 万博お熊甲祭りに参加(玉地さん、岩尾さん、安福さん、南さん、島村さん、山村、吉椿)</p> <p>9/13-15 関西 NGO 協議会ユース研修合宿(神戸しあわせの村)</p> <p>12 月 ワンワールドフェスティバル for Youth でブース出展 (島村さん、安福さん、山村、吉椿)</p> <p>2026 年 2 月～3 月 日中 NGO ボランティア研修交流事業の開催</p>
--	---

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1) 災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002 年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが

	<p>目的である。これまで CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb(UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト)やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトで紹介してきた。</p> <p>今年度も引き続き翻訳ボランティアさんの力を借りながら少しずつではあるが、英語の情報発信 (HP、FB) を充実させていく。</p>
--	---

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》社会防災テーマ型実習 C (* 2024 年度から神戸学院大学(社会防災特別講義 II から名称変更)
実施日時	9 月から 1 月まで、毎週火曜日第 3 限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約 25 名
実施内容	<p>・「現代社会学部」の後期授業「社会防災テーマ型実習 C」での講師派遣 前年度同様に後期(火曜 3 限、全 15 回)の講義を吉椿(9)、斉藤容子さん(3)、頼政良太さん(3)を講師としてオムニバス形式で講義を実施する。</p> <p>* 2025 年度の授業計画</p> <p>第 1 回(9/30)ガイダンスと世界の災害(吉椿)</p> <p>第 2 回(10/7)NGO とボランティア(吉椿)</p> <p>第 3 回(10/14)日本の災害 NGO とボランティア(頼政さん)</p> <p>第 4 回(10/21)海外の NGO 活動(吉椿)</p> <p>第 5 回(10/28)市民社会と NGO(吉椿)</p> <p>第 6 回(11/4)現代社会とジェンダー(斉藤さん)</p> <p>第 7 回(11/11)緊急支援から復興・防災へ(頼政さん)</p> <p>第 8 回(11/18)コミュニティ防災(斉藤さん)</p> <p>第 9 回(11/25)災害とフィールドワーク(吉椿)</p> <p>第 10 回(12/2)NGO を作るワーク(基礎編①)(吉椿)</p> <p>第 11 回(12/9)NGO を作るワーク(基礎編②)(頼政さん)</p> <p>第 12 回(12/16)NGO を作るワーク(実践編①)(吉椿)</p> <p>第 13 回(12/23)NGO を作るワーク(実践編②)(斉藤さん)</p> <p>第 14 回(1/6)NGO を作るワーク作成編(吉椿)</p> <p>第 15 回(1/20)ポスターセッション(吉椿)</p>

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》親和大学(国際ボランティア論) * 2023 年度より共学となり、名称が親和女子大学から親和大学に変更になった。
実施日時	4 月から 7 月まで、毎週月曜日第 2 限
実施場所	親和女子大学キャンパス、その他課題提出型授業
受益対象者の 範囲及び予定 人数	現代社会学部の学生 21 名
実施内容	<p>2020 年度前期(月曜 2 限、全 15 回)より「国際ボランティア論」の講義を受託している。講師は、今年度から坂西卓郎さん(PHD 協会)(7)、吉椿(CODE)(7)の二者で担う。今年度から必修科目ではなくなったことから受講生は、21 名となった。</p> <p>* 2025 年度の授業計画</p> <p>第 1 回(4/7) ガイダンス(三井さん)</p> <p>第 2 回(4/14) 国際協力概論(坂西さん)</p> <p>第 3 回(4/21) ボランティアとは(吉椿)</p> <p>第 4 回(4/28) 世界の難民問題(坂西さん)</p> <p>第 5 回(5/12) 日本の難民問題(坂西さん)</p> <p>第 6 回(5/19) 国際協力と多文化共生①(坂西さん)</p> <p>第 7 回(5/26) 国際協力と多文化共生②(坂西さん)</p> <p>第 8 回(6/2) やさしい日本語(坂西さん)</p> <p>第 9 回(6/9) ネパールにおける聴覚障害の状況(坂西さん)</p> <p>第 10 回(6/16) NGO とは?(吉椿)</p> <p>第 11 回(6/23) 異文化理解と援助(吉椿)</p> <p>第 12 回(6/30) SDGs と災害(吉椿)</p> <p>第 13 回(7/7) 国際協力と若者(吉椿)</p> <p>第 14 回(7/14) 災害フィールドワーク(吉椿)</p> <p>第 15 回(7/21) 国際協力における災害と貧困(吉椿)</p>

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学(ボランティア論Ⅱ)
実施日時	4 月から 7 月まで、毎週火曜日第 1 限
実施場所	神戸学院大学ポーアイキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の 範囲及び予定 人数	現代社会学部の学生 30 名
実施内容	<p>2020 年前期(火曜 1 限、全 15 回)より始まった「ボランティア論Ⅱ」の講義を吉椿が担っている。2025 年度も、ゲストスピーカーとして斉藤容子さん(4)にも講義していただいている。また、山村など若者にも講義をしてもらう機会を作る。</p>

	<p>* 2025 年度の授業計画</p> <p>第 1 回(4/8) ガイダンス(吉椿)</p> <p>第 2 回(4/15) 災害ボランティアについて(吉椿)</p> <p>第 3 回(4/22) 災害ボランティアセンターとネットワーク(吉椿)</p> <p>第 4 回(4/29) 避難所運営とボランティア(斉藤さん)</p> <p>第 5 回(5/13) 避難所ワーク「HUG」(斉藤さん)</p> <p>第 6 回(5/20) 復興支援とボランティア(吉椿)</p> <p>第 7 回(5/27) 足湯ボランティア(吉椿)</p> <p>第 8 回(6/3) ボランティアとフィールドワーク(吉椿)</p> <p>第 9 回(6/10) 海外のボランティア①中国(吉椿)</p> <p>第 10 回(6/17) 海外のボランティア②フィリピン(斉藤さん)</p> <p>第 11 回(6/24) 海外のボランティア③インドネシア(吉椿)</p> <p>第 12 回(7/1) 海外のボランティア③イタリア(吉椿)</p> <p>第 13 回(7/8) ボランティアと若者・働き方(山村、吉椿)</p> <p>第 14 回(7/15) 災害とジェンダー(斉藤さん)</p> <p>第 15 回(7/22) NGO とボランティア(吉椿)</p> <p> </p> <p>* その他、</p> <p>5/22 社会貢献実習 I (田中さん、諏訪さん)で講義(山村)</p> <p>7/12、7/19 社会貢献学入門(履修者神戸学院大学 56 名、その他、東北福祉大学、工学院大学で約 600 名)で講義(吉椿)</p>
--	--

事業名	4-(4)《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の 範囲及び予定 人数	未定
実施内容	<p>・講師派遣</p> <p>前年度と同様、派遣依頼があれば行う。</p> <p> </p> <p>* 今年度の予定</p> <p>2026 年 1 月 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義(吉椿)</p>

事業名	4-(5) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の 範囲及び予定 人数	未定
実施内容	<p>① 関西 NGO 協議会の活動への参加</p> <p>今年度も、組織理事として理事会や常任理事会への出席、KANSAI-SDGs 市民アジェンダ、ワンワールドフェスタ for Youth などのイベントへの参加を継続し、関西の市民社会や NGO の一員として連携する。その他、能登半島地震支援に関する情報共有も行う。また、関西 NGO-JICA 協議会の担当を務め、JICA や NGO のユース世代の交流の場などを創っていく。</p> <p>* 2025 年度の主な動き</p> <p>5/8 理事会に出席(吉椿)</p> <p>5/11 2025 年度総会(理事会)に出席(吉椿)</p> <p>6/26 セーフトラベルセミナーに参加(吉椿)</p> <p>9/13-15 関西 NGO 協議会ユース研修合宿に参加</p> <p>12 月 ワンワールドフェスティバル for Youth でブース出展 (島村さん、安福さん、山村、吉椿)</p> <p>② コープこうべとの連携</p> <p>例年通り、総代会への出席、講演会、報告会やイベントなどへの積極的な参加、ハート基金運営委員会での報告などを引き続き行う。また、今年度もミャンマー・タイ地震など中長期的な復興支援で連携していく。</p> <p>* 主な動き</p> <p>6/11 第 105 期通常総代会に出席(吉椿)</p> <p>6/19 ハート基金運営委員会でミャンマー・タイ地震の報告(山村、吉椿)</p> <p>③ 近畿ろうきん</p> <p>2018 年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」の寄付先団体 CODE は選出されており、年間約 20 万円ほどの寄付をいただいていた。今年度は寄付額 877,546 円に増額したこともあり、他の事業にも活用させていただく。</p> <p>2019 年より毎年、CODE 寺子屋の事業として、若者、SDGs や難民などのテーマでセミナー開催に協賛していただいている。(2024 年度事業報告を参照)</p> <p>今年度も近畿ろうきんの支援による CODE 寺子屋セミナーを 2026 年 1、2 月頃開催予定。</p>

	<p>* 2025年度の主な動き</p> <p>6/6 近畿ろうきん笑顔プラス贈呈式に出席(山村、吉椿)</p> <p>1月頃 CODE 寺子屋セミナー2025を共同開催</p> <p>④ 若者の団体とのネットワーク</p> <p>2023年度は、トルコ・シリア地震支援のユース交流や能登半島地震支援などで、ワカモノチカラの方々と、関西 NGO-JICA 協議会やワンワールドフェスティバル for Youth などを通じて他の NGO の学生インターンなどとも連携していく。</p> <p>⑤ JPF、JANIC、JICA 関西、人と防災未来センターなどのネットワークとも引き続き災害時の情報交換などで連携していく。</p>
--	---

事業名	4-(6) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン / NGO ネットワーク ABAG(セブ市) ・中国 / NGO 備災センター(新安世紀教育安全科技研究院)(四川省成都市) ・国際アライアンス「IACCR」(事務局: 中国四川省成都市、14の国と地域) ・ネパール / シェルパ村落開発改善委員会(ソルクンプ郡グデル村シャーレ地区) ・インドネシア/ リナさん、(故エコ・プラウトさん夫人) (ジョグジャカルタ特別州) ・トルコ/ ハサン・デニスさん(ACEV コーディネーター)(イスタンブール) <li style="padding-left: 2em;">メハメット・ドグルさん(Active Participants Association)(ガジアンテプ) ・トルコ/ セルバイさん(NGO Dayanışma Gönülleri) (ハタイ県デフネ) ・トルコ/ Cansu さん協同組合「Hatay Ronya Sanat」 <p style="text-align: center;">上記のネットワークとの関係をそれぞれの事業を通じて深めていく。</p>

【5. 「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般

人数	
実施内容	<p>CODE 寺子屋は、この数年近畿ろうきんの協賛を得て、関西 NGO 協議会と共催で、「若者」、「SDGs」、「難民」、「気候変動」などをテーマに開催してきた。</p> <p>* 2025 年度も例年通り関西 NGO 協議会 (KNC) や近畿ろうきんと協働で、CODE 寺子屋を開催する。2025 年度は阪神・淡路大震災 30 年の節目でもあるので、災害・紛争など世界的な課題をテーマに市民主体で議論する場を提供する。</p> <p>* 今年度は、阪神・淡路大震災 30 年の企画としても、CODE 寺子屋や講演会も開催する。「NGO ことはじめ」での議論を経て、若者たちに以下の寺子屋を企画してもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユス NGO 大賞受賞記念講演「NGO の 30 年」(仮)、または 「最後のひとりまでを振り返って」(仮) (村井理事) ・室崎代表理事による基調講演「阪神・淡路大震災から 30 年を振り返って」(仮) など

【6. 「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>●今年度の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛助会員の拡大(現在の会員の状況:正会員 28、賛助会員 123 計:151) 2024 年度の賛助会員は、123 名。引き続き CODE の活動を丁寧に発信することで賛助会員の数を増やしていく。最新号 CODE レターVol.77(2025 年 5 月 23 日発行)は、1449 部を発送している。 ・CODE レター発行・送付 各号約 1000 部を発送していたが、2023 年のトルコ・シリア地震でたくさんの方々に寄付をいただいた事から現在は約 1400 部発送しているが、今年度は発送リストを精査していく。 ・リーフレットのカラー刷新 広報ワーキングや未来基金の若者たちでリニューアルを進める。 ・SNS を活用した広報 CODE レター発行など従来の紙ベースものに合わせて、学生ボランティアさんの協力でフェイスブック、インスタグラムなどの SNS を積極的に活用していく。学生インターン、ボランティアなど未来基金の若者たちにもサポートしていただく。

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>① 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸学院大学、親和大学の連続講義は、別途 4-(1)、4-(2)、4-(3)に記載 <p>* 2025 年の主な動き</p> <ul style="list-style-type: none"> 5/23 大阪大学学生の来所、講義(宮本副代表、吉椿) 5/25-26 法政大学で講演(吉椿) 6/7 関西学院大学フィールドワークで講義(吉椿) 6/25 大阪大学人間科学部「共生の理論と実践」で講義(宮本副代表、吉椿) 6/27 北須磨高校で講演(吉椿) 12/5 福知山公立大学「地域防災論」で講義(吉椿) 福知山市「地域防災連続セミナー」で講演(吉椿)

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関紙は年 3 回発行 メーリングリスト、SNS は随時発信(積極的にツイッターの利用を行う)
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	<ul style="list-style-type: none"> ・機関紙は年 3 回、各号 2000 部を発行し、約 1400 部を送送する。 ・インターネットは不特定多数
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・機関誌: CODE レターは、年 3 回、4 月、7 月、12 月頃に発行予定。 最新号 Vol.77(2025 年 5 月 23 日発行)は、1449 部を送送している。 ・メーリングリスト、FACEBOOK: 逐次、災害救援レポートを発信。 ・ツイッター、インスタグラム: 学生インターン、ボランティアさんによって逐次発信 今年度も、CODE レター、ML、SNS を活用して広報を充実させる。 HP の英語版の更新も進める。

【7. その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	7-(1) 「組織基盤の強化に関して」
-----	---------------------

実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	<p>① 会計顧問業務</p> <p>2023年度から税理士の今中一寿さんの後任として、沖村朝之さん(沖村朝之税理士事務所:神戸市中央区)ご協力いただき、会計のあり方や組織基盤を見直し、認定NPO法人の申請の準備を整えていただいている。2024年は、沖村税理士と事務局で認定NPO申請に向けて準備を進めていく。</p> <p>② 事務所移転</p> <p>家主の意向により2023年末までに事務所を移転する報告で物件などを探してきたが、2024年1月の能登半島地震が発生した事で退去期限を延長してもらっている状態である。同居している被災地NGO協働センターと今後について協議し、新たな移転先を探す。</p> <p>③ 理事の退任、就任</p> <p>以下の通り、西海理事の退任と3名の理事が就任する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退任:西海恵都子さん(神戸新聞社常務取締役) ・就任:岸本達也さん(神戸新聞社論説委員) ・就任:植田隆誠さん(JICA 社会基盤都市・地域開発グループ) ・就任:柳瀬彩花さん(神戸市社会福祉協議会生活支援コーディネーター) <p>④ ワーキンググループによる組織基盤の強化</p> <p>2025年度も、以下の担当でCODEの事業を進めていく。</p> <p>新任の岸本理事、植田理事、柳瀬理事にも以下の担当を担っていただく。</p> <p>* CODE ワーキンググループの役割と担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイドライン: 榛木理事、山口理事 2. 人材育成: 宮本副代表理事 3. 資金調達: 冬頭理事、西田理事 4. 広報: 岸本理事(予定) 5. 支援プログラム: 災害発生後、その都度開催 <p>* 室崎代表理事、村井理事は全部門に参加 (2024年度末時点)</p>